

テレビまんが雑誌とアニメブーム —テレビランド・アニメージュからスタジオジブリへ

かつてアニメは特撮作品と密接に関係し、「テレビまんが」と総称されていました。今回は、雑誌メディアと映像作品の特別な関係が、日本のアニメや特撮の進歩に大きな役割を果たしてきた事実にスポットを当てて、講師に語っていただきます。

日程・テーマ・講師

毎週火曜日 19:00-20:30

第1回 総論

11/14

「テレビランド」と「アニメージュ」。その誕生と、それらがもたらしたもの

講師：氷川竜介、高橋望

第2回 座談会1

11/21

テレビまんがと雑誌の深い関係。コミカライズ作品と「テレビランド」

講師：青柳誠、氷川竜介、高橋望

第3回 座談会2

11/28

テレビまんが第一世代が担ったアニメブーム後の出版メディア

講師：渡邊隆史、氷川竜介、高橋望

第4回 まとめ

12/5

テレビまんがの「死」とスタジオジブリの誕生

講師：氷川竜介、高橋望

全4回
通し受講のみ

定員：40人（先着制）

受講料：市民 2,400 円、市民学生 1,800 円、一般 3,000 円 ほか

会場：三鷹ネットワーク大学

お申し込み・お問い合わせ

三鷹ネットワーク大学推進機構

申込期間 ▶ 10月17日(火)9:30～11月12日(日)17:00

電話 0422-40-0313

FAX 0422-40-0314

URL <https://www.mitaka-univ.org/>

郵送先 〒181-0013 三鷹市下連雀3-24-3 三鷹駅前協同ビル3階

Web申込はこちらから



講座趣旨

かつてアニメは特撮作品と密接に関係し、「テレビまんが」と総称されていました。そしてあくまで「子どもの観るもの」で、いつかテレビまんがから卒業するのが常識でした。しかし、1970年代末から始まったいわゆるアニメブームの時期、その常識は激変します。『宇宙戦艦ヤマト』や『機動戦士ガンダム』などの作品に多くの若者が熱狂し、アニメはティーン以上が楽しめるメディアとして社会的に認知されるようになったのです。日本初の本格的アニメ専門誌「アニメージュ」はこんな背景を元に、1978年に誕生したのです。専門誌の登場によって、アニメブームはさらに加熱し、拡大します。そのひとつの果実として、高畑勲監督や宮崎駿監督の再評価が進み、「アニメージュ」での原作マンガの連載をきっかけに宮崎監督の映画『風の谷のナウシカ』が作られ、大ヒット。そしてスタジオジブリの誕生へと時代は大きく進んでいくことになります。

今回は、スタジオジブリが発行する小冊子「熱風」に「昭和アニメージュの功罪～テレビまんがの死と再生」(2022年5月号～2023年4月号)を連載した氷川竜介さんを講師に招き、特に、雑誌メディアと映像作品の特別な関係が日本のアニメや特撮の進歩に大きな役割を果たしてきた事実スポットを当てて、日本のアニメ史の最も熱かった時代の重要性を今までにはなかった視点で語っていただきます。

講座開催概要

日程	2023年11月14日・21日・28日、 12月5日火曜日
時間	午後7時～8時30分
定員	40人(先着制)
回数	全4回(通し受講のみ)
受講料	一般 3,000円 市民 2,400円 市民学生 1,800円 会員 1,500円
難易度	★★☆
会場	三鷹ネットワーク大学
申し込み	<input type="checkbox"/> Web <input type="checkbox"/> FAX <input type="checkbox"/> 窓口 <input type="checkbox"/> 郵送 にて 申込期間:10月17日(火)午前9時30分～11月12日(日)午後5時

総論

「テレビランド」と「アニメージュ」。その誕生と、それらがもたらしたもの
講師：氷川竜介、高橋望

第1回
11月14日

テレビまんが隆盛の1970年代初頭に誕生した専門雑誌が「テレビまんが」雑誌です。そこでは、テレビで活躍する特撮ヒーローや巨大ロボットの活躍がカラーグラビアとモノクロのマンガとで紹介され、子どもたちの熱狂を消えないものとして定着させたのです。実は、アニメ専門誌である「アニメージュ」は、同じ版元(徳間書店)から発行されていたテレビまんが雑誌「テレビランド」を母体に生まれたという背景があります。

氷川さんに、2つの雑誌の誕生前夜の状況とその出現がもたらしたものは何だったのかを語ってまいります。

座談会1

テレビまんがと雑誌の深い関係。石森プロ作品と「テレビランド」
講師：青柳誠、氷川竜介、高橋望

第2回
11月21日

テレビまんがの時代、大きな役割を果たしたのがマンガ家・石ノ森章太郎です。石ノ森は、『サイボーグ009』や『仮面ライダー』シリーズなどの原作者として知られていますが、それだけではありません。石森プロは、多くのテレビまんがの企画・制作にも深くかかわり、一方で「テレビランド」などの雑誌とも様々な協力関係を築いていきました。

当時の事情に詳しい青柳誠さんを招き、テレビまんが雑誌がアニメや特撮番組と密接な関係をもっていた時代を振り返ります。

<p>第3回 11月28日</p>	<p>座談会2 テレビまんが第一世代が担ったアニメブーム後の出版メディア 講師：渡邊隆史、氷川竜介、高橋望</p> <p>70年代後半、アニメブームを経ることで、時代はテレビまんがとテレビまんが雑誌の時代から、アニメとアニメ専門雑誌の時代へと急速に変化していきます。その時に出版の現場を担ったのが、未就学児童の時期からアニメや特撮番組に親しんできた「テレビまんが第一世代」でした。氷川さんと同世代で、「アニメージュ」と「ニュータイプ」、2大アニメ雑誌の編集長を務めた渡邊隆史さんを招き、第一世代がけん引した「僕らの時代」を熱く語ります。</p>
<p>第4回 12月5日</p>	<p>まとめ テレビまんがの「死」とスタジオジブリの誕生 講師：氷川竜介、高橋望</p> <p>アニメブームの中で生まれた「アニメージュ」は、雑誌として人気作を扱う受動型に留まらず、独自の映画制作に力を入れて発信型に変化します。それが徳間書店を母体とするスタジオジブリ創設に繋がりました。テレビまんが、「テレビランド」と「アニメージュ」、そしてスタジオジブリへの流れを氷川さんに総括してもらい、得られたものの大きさと同時に、「特撮」を切り捨てたことで失ってしまったかもしれないもの、もう一度着目しなければいけないこともあるのではないかと——そうした観点で、将来像を探っていきます。</p>

講師紹介（敬称略）

氷川 竜介（ひかわ りゅうすけ）

アニメ特撮研究家 / 明治大学大学院特任教授（2024年度から復職予定）

1958年、兵庫県生まれ。東京工業大学卒。1977年に月刊OUT「宇宙戦艦ヤマト特集」でデビューし、黎明期のアニメ特撮出版、レコードに関わる。IT系企業で通信機器開発に携わり、国際標準化活動の経験あり。文化庁メディア芸術祭審査委員、毎日映画コンクール審査委員などを歴任。文化庁向けに「日本特撮に関する調査報告書」「日本アニメーションガイドロボットアニメ編」を執筆（共著）。主な編著等：『20世目のザンボット3』（太田出版）、『世紀末アニメ熱論』（キネマ旬報社）、『細田守の世界—希望と奇跡を生むアニメーション』（祥伝社）、『日本アニメの革新—歴史の転換点となった変化の構造分析』（KADOKAWA）など。

青柳 誠（あおやぎ まこと） 石ノ森章太郎ファンクラブ会長

石ノ森先生の原稿管理、テレビ番組の企画スタッフなどを担当。

のちに出版社に転職、『コミックWOO』『週刊サンケイ』『週刊SPA!』の編集を経て、管理、営業部門に異動。2010年に定年を迎える。

渡邊 隆史（わたなべ たかし） 元アニメージュ/ニュータイプ編集長

1959年生まれ 栃木県宇都宮市出身。徳間ジャパンで「風の谷のナウシカ」「天空の城ラピュタ」などのアニメ音楽ディレクターを経て、徳間書店アニメージュ五代目編集長、G a z o編集長。角川書店ニュータイプ編集長、特撮ニュータイプ編集長に。映像プロデューサーとしてアニメ映画「時をかける少女」「サマーウォーズ」「おおかみこどもの雨と雪」に高橋望氏と共に参画。グロービジョンで音響制作を経て、現在、KADOKAWA アニメーション文化研究担当。オーディオブックディレクター。

高橋 望（たかはし のぞむ） 映画プロデューサー

1960年東京都生まれ。1983年徳間書店に入社し、『テレビランド』『アニメージュ』などの編集を担当。89年にスタジオジブリに出向、『おもひでぽろぽろ』（91年）『紅の豚』（92年）『千と千尋の神隠し』（01年）などの制作や、『海がきこえる』（93年）『猫の恩返し』（02年）などのプロデューサーを務める。その後、日本テレビ映画事業部へ。『ALWAYS 三丁目の夕日』（05年）シリーズや、アニメーション映画では『サマーウォーズ』（09年）など細田守監督作品をプロデュースした。現在は、「アニメージュとジブリ展」の監修者を務める。

三鷹ネットワーク大学 受講者登録用紙

*すでに受講者登録を済まされている方は必要ありません。インターネットでもご登録ができます。

※太枠内の項目は必須事項です。

登録日：西暦 年 月 日

お名前	フリガナ	性別 (任意)	生年月日	西暦 年 月 日
受講者区分 ※該当する番号を1つ選んで○をつけてください。	(1) 【市民】三鷹市にお住まいの方(学生は除く) (2) 【市民(在勤・在学)】三鷹市外にお住まいで、三鷹市内の職場・学校に通われている方 (3) 【市民学生】三鷹市にお住まいの学生の方 (4) 【会員】勤務先、学校等が三鷹ネットワーク大学の正会員または賛助会員の方 (5) 【一般】三鷹市外にお住まいの方			

Eメール				
緊急連絡先	携帯電話番号：	携帯Eメール：		

《郵便物の送付先※振込用紙や受講証等のお送り先を、下記から選んでください。》

郵便物送付先	ご自宅	勤務先
---------------	-----	-----

《ご自宅》

ご住所	〒 —		
電話番号		F A X	

《勤務先・学校名等》

勤務先名称	※学生の場合は学校名と学部・学科名		
勤務先部署名	※学生の場合は学籍番号	役職名	
ご住所	〒 —		
電話番号		F A X	

《ご職業等》※職種・業種について該当するものにそれぞれ○をつけてください。

勤務先業種	①官公庁 ②団体 ③教育 ④宗教 ⑤医療 ⑥建設 ⑦金融・保険 ⑧製造 ⑨運輸・通信 ⑩農林水産 ⑪電気・水道 ⑫不動産 ⑬卸・小売 ⑭飲食 ⑮IT・ソフト ⑯その他
職業(職種)	①経営者 ②役員・管理職 ③一般事務 ④営業 ⑤販売・サービス ⑥生産管理 ⑦研究開発 ⑧専門職(医師・弁護士等) ⑨教職 ⑩自由業 ⑪専業主婦 ⑫無職 ⑬その他

《三鷹ネットワーク大学からの情報提供ご希望の有無》

情報提供	希望する	希望しない
-------------	------	-------

《興味をお持ちの分野》※3つまでお選びください。

1 経営・経済学	2 歴史学	3 法学	4 文学	5 工学	6 教育学	7 福祉・医療	8 介護・看護
9 コンピューターサイエンス	10 アジア・アフリカ系言語	11 総合政策	12 国際関係論	13 政治学	14 天文学	15 農学	16 臨床心理学
17 カウンセリング学	18 社会心理学	19 国際コミュニケーション学	20 スポーツ医学	21 マーケティング学	22 人間環境学	23 キャリアデザイン等	24 社会福祉学
25 情報科学	26 情報コミュニケーション学	27 グローバルビジネス学	28 宗教学	29 平和学	30 生物学	31 化学	32 数学
33 教養学	34 建築学	35 その他					

◆受講者登録について *すでに受講者登録を済まされている方は必要ありません。


三鷹ネットワーク大学で受講される場合は、受講者登録の手続きが必要です。講座のお申し込みをする前に(講座のお申し込みと同時に)、必ず受講者登録を済ませてください。(性別欄の記載は任意です。未記載とすることも可能です。)ご登録をさせていただくことにより、今後お申し込みされる際に、ご住所等、個人情報を記入する手間がなくなります。またインターネットからのお申し込みも可能となります。

◆個人情報について

ご記入いただいたお客様の個人情報は、個人情報保護法に基づいて適切に管理するとともに、受講決定通知および講座のご案内目的のために使用します。

受講者 番号	Eから始まる数字6ケタをご記入ください。 E _ _ _ _ _ _	申込日	西暦	年	月	日
名前	フリガナ _____	電話番号				

※申込欄に○をご記入ください

申込欄	講座タイトル・講座日程・講師	受講料	受付印
	三鷹の森ジブリ美術館 協力 第10回アニメーション文化講座 テレビまんが雑誌とアニメブーム ーテレビランド・アニメージュからスタジオジブリへ 第1回 11月14日 講師：氷川竜介、高橋望 第2回 11月21日 講師：青柳誠、氷川竜介、高橋望 第3回 11月28日 講師：渡邊隆史、氷川竜介、高橋望 第4回 12月5日 講師：氷川竜介、高橋望 いずれも火曜日 午後7時～8時30分	一般 3,000円 市民 2,400円 市民学生 1,800円 会員 1,500円	文化・教養
	Web申込はこちらから 		

※ファックスでお送りいただく場合には、着信確認のためのお電話をお願いいたします。

電話：0422(40)0313 ファックス：0422(40)0314

[郵送での申込]〒181-0013 三鷹市下連雀3-24-3 三鷹駅前協同ビル3階 三鷹ネットワーク大学事務局

【ご受講について】

●お申し込みについて

お申し込みは講座前日（前開館日）の午後9時（日曜日は午後5時）で締め切ります。当日のお申し込みは受け付けません。（一部の講座は除く。）

●受講料のお支払いについて

受講料は、講座の当日窓口でお支払い（電子決済または現金）いただくか、お支払いのご案内等に沿って事前にお支払いください。

●受講のキャンセルについて

(1) 講座申し込み後にお客様の都合により受講をキャンセルする場合は、至急事務局まで電話でご連絡ください。

(2) 一度申し込んだ講座を別の講座に変更することはできません。申し込み済みの講座をキャンセルしてから、再度希望の講座にお申し込みください。ただし、講座申し込み期間内のみ受け付けます。

●受講資格について

受講は原則としてお申し込みされた本人のみとさせていただきます。

承認	受付担当